

目 標

我々、いわき経済同友会会員は、企業経営者の異業種交流活動を通して、三つの目的を達成し、仲間の連帯を深め、地域経済の発展と活性化をはかり、夢と希望に満ちあふれた地域社会づくりをめざします。

SEA IWAKI

6月号／2018年6月1日発行

3つの目的

- 1つ よい社会をつくろう
- 2つ よい経営者になろう
- 3つ よい経営環境をつくろう

5月21日(月)
19:00～

5月通常例会

会場
スパリゾートハワイアンズ

演題 「今開くいわきの世界への扉 人と物の交流地点 小名浜港の未来予想図」
講師 国土交通省 東北地方整備局 小名浜港湾事務所 長尾崎 精一 様



講演会内容

「今開くいわきの世界への扉 人と物の交流地点 小名浜港の未来予想図」

講 師 国土交通省 東北地方整備局 小名浜港湾事務所長 尾崎 精一 様

小名浜港周辺の企業立地状況

○小名浜港の背後には、電源、エネルギー、金属、化学、木材関連など多くの企業・工場が立地。特に石炭。

福島県沿岸部の発電所の立地状況

- 福島県の沿岸部には多くの火力発電所が立地し、東北地方や首都圏への電力供給に寄与。
- 小名浜港関連では555万kw、相馬港関連では200万kwの発電能力を有しており、これらを合わせると約260万世帯の電力に相当する（一世帯当たり30A・100Vとして換算）。
- 東京電力は、広野火力発電所及び常磐共同火力発電所敷地内に、新たな発電設備として石炭ガス化複合発電（IGCC）2機（計約108万kw）の建設を進め、オリエンピック電源として首都圏需要に対応しようとしている。
- 福島ガス発電株は、LNG受入基地隣接地の相馬港第4号埠頭に天然ガス発電所（約1200万kw）を建設中（H29.10着工）。

小名浜港周辺における企業立地状況

- 東京電力広野火力発電所内に建設を計画していた「石炭ガス化複合発電施設（IGCC）」の着工式が、平成30年4月に行われた。運転開始は、平成33年9月を予定。
- いわき小名浜みなとオアシス背後に建設中の「イオンモールいわき小名浜」が、平成30年6月にオープン予定。
- エア・ウォーター（株）及び中国電力（株）が、平成29年10月に「木質バイオマス発電（7.5万kw）事業実施」を正式発表。着工は平成30年11月頃、運転は平成32年12月頃を予定。

◆誕生日プレゼント

ダリアが贈られました



左から、高原繁美さん（5月19日）、里見 潤さん（5月22日）、安島代表幹事、波多野和茂さん（5月19日生）

小名浜港、いわき市、福島県の経済規模

- 福島県は東北地方の製造品出荷額の約3分の1を占める工業県である。
- いわき市の製造品出荷額は、東北地方の市町村別で見ると第2位である。
- 平成26年の小名浜港の取扱貨物量は、一般貨物が1,789万t

小名浜港の取扱貨物の内訳 (H29)

- 小名浜港は、火力発電所などへの燃料（石炭、重油など）供給拠点、金属鉱（銅鉱石、亜鉛鉱など）や化学薬品などの工業原料の輸入拠点としての役割を果たしている。
- 取扱貨物量は石炭が6割を占めており、外貿貨物の相手国はオーストラリアが最も多く全体の6割である。

小名浜港における取扱貨物量の推移

- 平成29年の取り扱い貨物量は1663万トン（前年比2倍増・H22比12%増）であり、東日本大震災による原子力発電所稼働停止後、火力発電所のフル稼働等により石炭の取扱量は高水準で推移している。

大型化が進むバラ貨物輸送船舶

- 船舶大型化の進展に伴い、大水深の港湾施設が必要くなっている。
- 穀物・石炭等を輸送する船舶
パナマックス（船型6～8万DWT程度）
⇒新パナマックス（仮称）（船型10万DWT程度）
- 鉄鉱石等を輸送する船舶（パナマ運河を経由しない）
ケープサイズ（船型10～20万DWT程度）
⇒最大級の鉄鉱石輸送船舶（船型30万DWT程度）

小名浜港東港地区国際物流ターミナル

- 平成23年5月、大型船に対応した港湾機能の拠点化、国全体として効率的かつ安定的なバルクネットワーク構築のため、国際バルク戦略
- 大水深岸壁等の整備により、大型船による安定的かつ効率的な石炭輸送が可能となることで、東日本地域に電力供給を行う火力発電所等への燃料供給地点としての機能が高まる。
- 平成29年4月には、小名浜港周辺において最新鋭の高効率石炭火力発電所（IGCC）が建設着工されるなど、投資・雇用の増加も見込まれ、地域経済の復興に寄与。
- 新たな火力発電所の建設により、石炭取扱量の更なる増加が見込まれるため、平成29年度より大水深岸壁の延伸などに着手し対応を図る。
- 臨港道路「小名浜マリンブリッジ」：H29.3月完成

福島に最新鋭石炭火力発電設備建設

- 立地場所 広野火力発電所、勿来発電所
- 出力 約54万kW×2基（石炭ガス化複合発電（IGCC））
- 想定スケジュール 平成32年9月（勿来）、平成33年9月（広野）運転開始見込み
- 雇用 最大2千人／日規模（建設最盛期、両地点合計）
- 経済波及効果 800億円／1地点程度
(環境アセス着手～建設～数十年の運転期間の総額)
⇒被災地域におけるエネルギー確保と雇用創出に貢献。

小名浜港を取り巻く情勢（港湾計画改訂①：バルク）

- 小名浜港東港では、今後の新規発電所建設などによる石炭取扱量増加が見込まれることから、港湾計画を改定し、国際物流ターミナル機能を強化。

◆クルーズ振興の促進**クルーズ船の寄港に関する状況**

- 2016年の訪日クルーズ旅客数は前年比78%増の199.2万人、我が国港湾への寄港回数は前年比39%増の2,017回（外国船社1,443回、日本船社574回）となり、いずれも過去最高。2020年までに目標500万人

クルーズ船の寄港する港湾

2016年クルーズ船の
寄港回数(上位10港)

順位	港名	寄港回数
1位	博多港	328回
2位	長崎港	197回
3位	那覇港	193回
4位	横浜港	127回
5位	神戸港	104回
6位	石垣港	95回
7位	平良港	86回
8位	鹿児島港	83回
9位	佐世保港	64回
10位	広島港	47回

クルーズ船の船型

- 必要岸壁水深9～11m程度

クルーズ船受入の更なる拡充「明日の日本を支える観光ビジョン」

- 訪日外国人旅行者数の受け入れ人数の目標として2020年に4,000万人（訪日クルーズ旅客は500万人）、2030年に6,000万人、訪日外国人旅行消費額の目標として2020年に8兆円、2030年に15兆円をそれぞれ目指すこととしている。
- クルーズ船に関しては、北東アジア海域をカリブ海のような世界的クルーズ市場に成長させ、クルーズ船寄港を生かした地方の創生を図ることとしている。

既存岸壁の活用

- 短期間かつ低コストで寄港を可能とするため、既存の貨物船用バースを改良してクルーズ船に対応。

国際クルーズ旅客受入機能高度化事業

- 訪日クルーズ旅客数500万人の実現に向けて、クルーズ旅客の利便性や安全性の向上及び物流機能の効率化を図るための事業を実施する者（地方公共団体及び民間事業者）に対し、その経費の一部を国が補助する。（対象経費の1/3以内）
- 国土交通省港湾局は、外国クルーズ船の我が国港湾への寄港促進を図るため、観光庁と連携し、海外クルーズ戦車などと全国の港湾管理者などが参加する「全国クルーズ活性化会議」の会員との商談会を2014年から実施中。*2017年度以降も引き続き、ラグジュアリークラス・プレミアムクラスのクルーズ船を中心に誘致予定

訪日クルーズ拠点港湾形成に向けた港湾法の改正

（平成29年7月8日施行）

- 国際クルーズ拠点として国が指定した港湾において、民間による受け入れ施設整備を促す協定制度などを創設。

「国際旅客船拠点形成港湾」として指定した港湾

（平成29年7月26日）

- 横浜港（カーニバル・コーポレーション&plc、郵船クルーズ）
清水港（ゲンティン香港）
佐世保港（カーニバル・コーポレーション&plc）
八代港（ロイヤル・カリビアン・クルーズ）
本部港（ゲンティン香港）
平良港（カーニバル・コーポレーション&plc）

東北での取り組み

- 東北の港湾に寄港するクルーズ船の寄港拡大により、地域振興及び観光振興を促進することを目的に港湾及び観光に携わる官民が連携し、東北クルーズ振興連携会議を平成29年3月28日に設立。

○今年度は、クルーズ船誘致促進に向けた勉強会や検討部会及びクルーズシンポジウムの開催など、精力的に活動。

クルーズ船寄港による地域活性化（おもてなし）

○クルーズ船寄港の際に、経済効果だけでなく、賑わい創出やクルーズ乗船客との地域交流を目的に、地元伝統芸能や地元高校生による吹奏楽など、趣向を凝らした“おもてなし”を実施。

クルーズ船寄港による地域活性化（秋田港クルーズ列車）

○クルーズ船乗船客の移動に対する2次交通対策として、秋田港から秋田駅までの直通列車による輸送について、あきたクルーズ振興協議会クルーズ列車ワーキングにおいて検討。（JR貨物の線路をJR東日本が使用）

○秋田竿燈まつり期間中（平成29年8月3日～6日の4日

間）、秋田港へクルーズ船が毎日（計4隻）寄港するため、クルーズ乗船客の円滑な移動手段の確保、地域経済の活性化などを目的に、貨物駅である秋田港駅と秋田駅を結ぶ秋田港クルーズ列車のトライアル運行を実施。

○平成30年度も大型客船の発着や「秋田港海の祭典」に合わせ、4月18日～11月3日までの期間中に計14日間運行予定。

小名浜港におけるクルーズ船寄港状況

○小名浜港では、震災後しばらくクルーズ船が入港していない状況が続いていたが、平成28、29年度と2年連続でクルーズ船が入港しており、平成31年4月にも飛鳥IIが寄港予定。

○いわき市が全国クルーズ活性化協議会へ加入するなど、クルーズ船招致に関し地元の機運が高まりつつある。



懇親会写真

5月グループ会報告

第2グループ会

■日 時 5月30日(水曜日) 18:30～

■場 所 文化センター

H30年度第2回第2グループ会開催

・インダストリー4.0 第一回勉強会

グロービス大学院でのアクセンチュア程会長の講演会動画を視聴

・研修旅行計画案説明

10/24・25・26 予定 福岡、別府、広島、神戸の工程

・7月担当例会の概要趣旨説明

*ドイツで考えられたインダストリー4.0（第4次産業革命）

A I、I o tなどITデジタル技術の急速な発達は世の中を間違いなく変えている

このことを無視しては、今後生き残れない。今回は、広く浅く大きな視点で、世界で何が起こっていて、これからどうなるかを視聴しながら勉強した。

専門用語もあり、理解しがたいところもあるが、学び続けなければならない。

*終了後、懇親会開催 またも、白熱議論で盛り上がりました。

第3グループ会

■日 時 5月30日(水曜日)

■場 所 サラブレッドカントリー

5月のグループ会は、「ゴルフコンペ」をおこないました。サラブレッドカントリー オークスコースが6月で閉鎖されるため、「さよならオークス」と題し、あのトリッキーなコースを堪能してきました。

成績は次の通りです。

優 勝 山野辺浩良

準優勝 加藤 丈晋

第4グループ会

■日 時 5月26日(土曜日) 8:00～

■場 所 茨城県筑波方面

第2回(5月度)移動グループ会：茨城県筑波方面の先端技術と文化財を訪ねる。

1)先端技術企業・A T J Cを訪問しました。「IT先端技

5月グループ会報告

術で人々を元気にすること」を目的として、システム開発を中心とした会社です。AIについて基本的な検知・認識、技術の再現、予測、共通点・異常の発見等を研修しました。

2)レストラン自然味工房にて、地元筑波産の食材を使用した料理を、ゆったりとした空間で頂きました。ここは、筑波産の良質な原料豚を使用し、炭火乾燥と桜の薪で燻製したハム、ベーコン、ソーセージ等を製造しているところです。

3)筑波宇宙センターの見学。この宇宙センターは筑波研究学園都市の一画に有り、宇宙からの目となる人工衛星の開発・運用及び観測画像の解析、ロケット・輸送システムの開発と技術基盤確立のための技術研究推進の場所です。

4)筑波山神社は関東の靈峰「筑波山」を御神体と仰ぎ、約3,000年の歴史を有する古社で、御祭神はイザナギの尊、

イザナミの尊であり。摂社は天照大御神と尊い御神徳の神社です。

新入会員紹介



高木心平
たかぎしんへい

司法書士高木心平事務所 司法書士

業種／司法書士

会社所在地 〒970-8026

いわき市平字三町目33番地

趣味／ゴルフ

7月例会

7月26日(木)

麦秋の候 ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。第2グループとの共催により、少子高齢化・人口減少が進行するなか、いわき市の未来を考えて、スポーツ産業が生み出す眞の効果を検証し、市民に発信し、官民連携を模索する為の議論の場としてスポーツ産業といわき市のまちづくりの融合について、講演会とパネルディスカッションを開催します。

◇講演会：「いわき市との現状分析と未来予測と、スポーツを通じたまちづくりの取組について」いわき市役所総合政策部創成推進課課長補佐富田稔様より聴講します。

◇パネルディスカッション：下記をテーマとして討議。

(1)いわき市の現状と未来認識の確認

(2)スポーツが及ぼす持続可能なまちづくりへの影響と今後の課題、戦略

(3)いわきFC スタジアム建設構想について

何かとご多用中誠に恐縮ではございますが、下記内容をご参照の上、ご参加ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

会場

例会・講演会 いわき市生涯学習プラザ(いわきワシントンホテル椿山荘4F)

懇親会 いわきワシントンホテル椿山荘3F

会費

5,000円

18:30～ 例会

18:45～ 講演会

19:15～ パネルディスカッション

20:30～ 懇親会

FMいわき「いわき経済同友会だより」

【7月予定放送】

・7月2日 第1グループ 下窪 翠文 様

・7月9日 第1グループ 太田 丈人 様

・7月16日 第1グループ 猪狩 謙二 様

◇毎週月曜日17時45分からです。(約5分間)

・7月23日 第1グループ 鈴木 俊哉 様

・7月30日 第1グループ 徳永 淳子 様

※インターネットでも、FMいわきがお聴きできますので、

17時45分になったら、下記のところをクリックして下さい。

<http://www.simulradio.jp/>

いわき経済同友会
ご入会のお薦め

いわき市内の企業経営者ならどなたでも入会できます

●会の趣旨に賛同される方は会員の推薦と所定の手続きによりどなたでも参加できます。
お問い合わせは下記へどうぞ。ご入会を心からお待ちしております。

事務局 〒970-8026 いわき市平字童子町4番地-18 いわき建設会館4F 発行 いわき経済同友会 安島 浩代表幹事
TEL 0246-23-1200 FAX 0246-23-1211 編集 情報委員会 委員長 坂本和久
http://www.seaiwaki.jp 副委員長／川崎憲正・田村慎太郎・四ツ倉隆裕
E-mail:doyukai@triton.ocn.ne.jp 常葉修一・山崎勇一郎